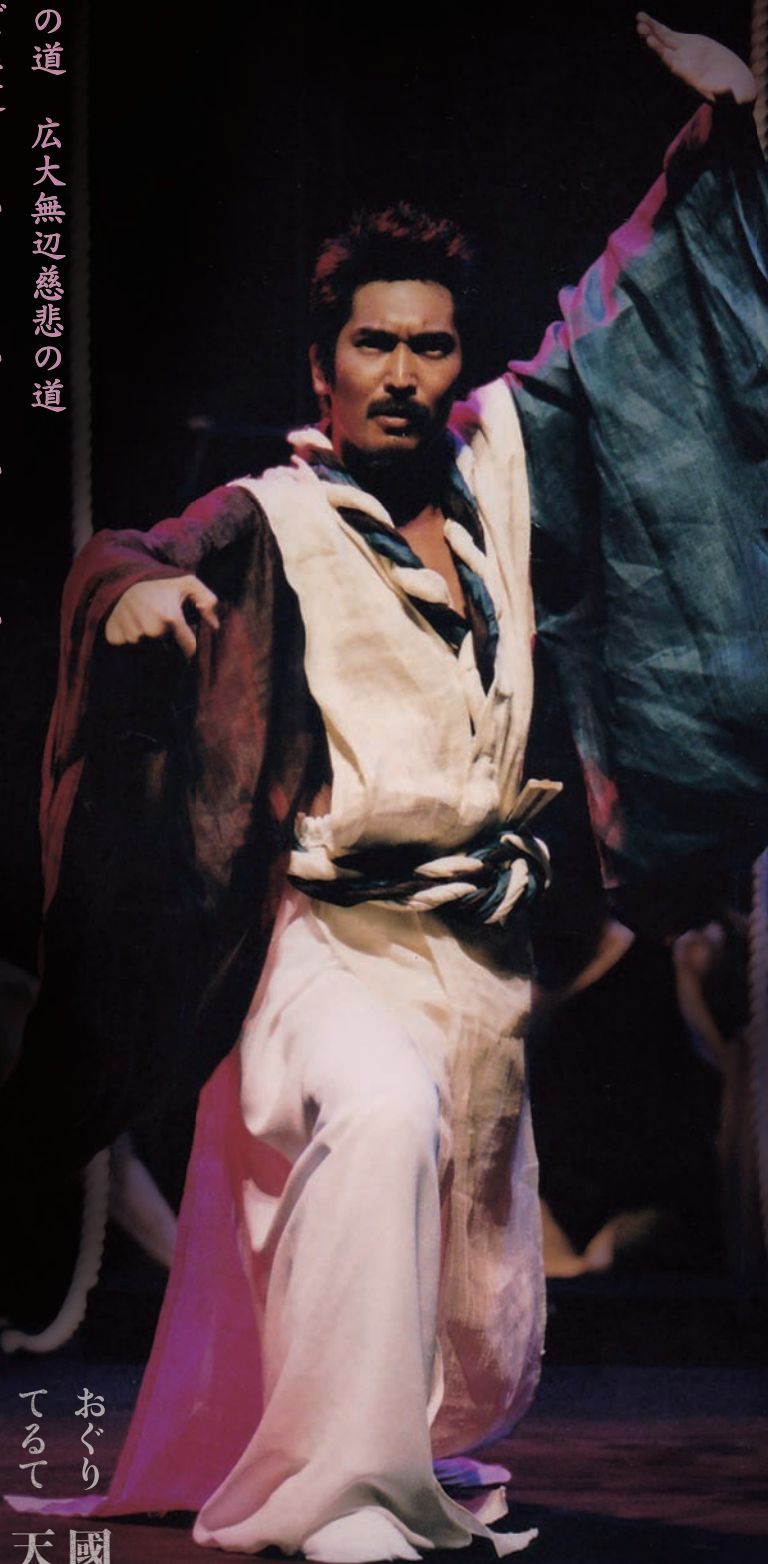


紀伊山地の霊場と参詣道 世界遺産登録20周年記念 奉納上演

音楽祝祭劇

# おぐりとてるて

説経浄瑠璃「小栗判官忠臣娘」より



熊野の道は癒しの道 広大無辺慈悲の道

信不信を選ばぬ道 えいさらえい えいさらえい

小栗の道 照手の道 引いて引かれる妹背の道

えいさらえい えいさらえい えいさらえい

ひと引き引いたは千僧供養 ふた引き引いたは万僧供養

賛助出演 高野和太鼓童わだこ DONKAKA・奥熊野太鼓

おぐり 國府田達也  
てるて 天野 弘愛

演出 笠井 賢一

2024年8月15日(木) 17時開演

熊野本宮大社 御神門内、御垣の前に特設舞台

記念事業運営協力費 4000円



# 音楽祝祭劇 おぐりとしてるて

説経浄瑠璃「小栗判官照手姫」より



2004年「紀伊山地の霊場と参詣道」として熊野本宮大社が世界遺産に登録された記念に、大斎原で『てるて姫伝説』という演劇を奉納公演致しました。本年、世界遺産登録20年記念として、熊野本宮大社の聖地で『おぐりとしてるて』の物語を音楽祝祭劇として奉納上演致します。

九鬼宮司のご協力で本宮大社御神門内、御垣の前にしつらえた舞台で、クライマックスの再生した小栗に、宮司からその証に金剛杖を手渡すという蘇り・復活の地に相応しい、古来からの場面をお見せします。

また上演に先立って、高野山と熊野の交流の証に、高野の地から「高野和太鼓童DONKAKA」が「奥熊野太鼓」との共演を致します。



あらずし 鞍馬の毘沙門天の申し子の小栗判官と、日光山の照る日月の申し子照手姫との別離と再会の恋物語。

荒ぶるおぐりは大蛇と契った罪で常陸に流され、てるてと結ばれる。この婚儀を許さない父の横山は、人食い馬の鬼鹿毛で殺そうとするが、おぐりは鬼鹿毛を見事に乗りこなす。ついに横山はおぐりを毒殺し、娘てるても模川に沈めようとするが、従者がてるてを助け、てるては人買いに売られる。

おぐりに操をたて遊女の勤めをしないてるては次々と売られ、美濃国、青墓の遊女屋よろず屋で水仕女となり常陸小萩と呼ばれて三年が過ぎる。一方、地獄に堕ちたおぐりは、閻魔大王の計らいで、「この者を熊野本宮湯の峰薬の湯に入れよ」と閻魔自筆の判を与えられ、餓鬼阿弥として蘇生する。藤沢の遊行上人がこれを見つけ、土車に乗せ「この者をひと引き引いたは千僧供養、ふた引き引いたは万僧供養」と胸札に書き添える。

その後善男善女がこの車を次々と引いてゆき美濃国青墓のよろず屋で車が止まる。てるてはこの餓鬼阿弥が夫のおぐりとも知らず、夫の供養のためにと車を引き、「餓鬼阿弥の病が本復したなら、青墓よろず屋の常陸小萩が一夜の宿をまいらせる」と胸札に書き置き、泣く泣く別れ行く。やがて多くの人々の力添えで、餓鬼阿弥は熊野本宮に至り、薬の湯の霊験により、もとのおぐりとして再生し、熊野権現から金剛杖を拝領し、てるてと再会する。

國府田達也 神奈川県生まれ。桐朋学園芸術学部演劇学科、文学座養成所を経て音原文太に弟子入り、三年半の修行のち独立。映画、舞台、TV、CM、テレビジョンなどに多く出演している。演出家笠井賢との仕事に「小栗判官照手姫」「古典原文 平家物語」「古事記」「漱石の夢」等多数。

天野弘愛 東京大学文学部歴史文化学科、円演劇研究所を経て劇団「こころ」に所属し、多数の舞台に出演。持ち前の音感とリズム感を生かし、小学生から老婆まで幅広い役を演じる。また、(株)ヘリンボーンに所属し、CM出演ナレーション等でも活躍。日本舞踊を藤間秀暉氏に師事。

高橋和久 福島県生まれ。ドイツのヨッシーヴィー演出「四谷怪談」で直助権兵衛役に抜擢。塩屋俊と共同で東日本大震災を題材にした「HIKOBATA 2013」を演出。「私もカトリックだ」と「今は昔、かぐやのミツシヨ」など国内外で多数上演。現在は、俳協に所属。

坪井美香 蛸川スタジオを経て、関弘子に師事し「語り」を学ぶ。自ら脚本を手がけ、レパートリーは日本の古典から現代小説まで幅広い。主な舞台「古事記」「竹取物語」、高田宏作「鳥焼け」、石牟礼道子作「水はみどろの宮」「緑並記の蝶」、詩と音楽で綴る竹内浩三「三三さん」。

金子あい 俳優アーツを修了。東京芸術大学大学院環境造形デザイン修士。「平家物語」語りと弦で「聴くミリス」「語り×義太夫 琵琶法師耳無譚」「語り×音楽 千夜物語」等を上演。「子午線の祀り」「雁作・桜の森の満開の下」等に出演。

なかにえみ 演じ手、書き手、プロデューサーも兼ね、身体表現を軸に活動している。テーマは「自然の中の人」「身体感覚」。老若男女、無機有機を問わず演じる。「よろほし〜手湯と草」「浜の女」「衣」など。「女人往生環Ⅱ」パターチャラー。「平家物語の始源」などにも出演。

茅根利安 仙台市を拠点に演劇活動を展開。下北沢演劇祭、愛知県芸術劇場フェスティバル招聘などを経験。宮城県芸術選奨新人賞受賞。東日本大震災からの心の復興を目指し「コロノキンセンアワー演劇部」をプロデュース。被災地支援公演や東京、ソウル公演なども行う。

橋政愛 既製の楽器に加え、鉄片、木片、植木鉢などを用い、ダイナミズムと透明感のある独自の音の世界で演奏活動を展開。また演劇の音楽創りに関しては、上演内容や役者の心情に深く浸った世界を開かせる。創作竹楽器集団「東京楽竹団」代表。橋さんのヤンチンや打楽器の音は私の演劇活動に不可欠である。

佐藤岳岳 地歌筆曲を二代末川文字師に師事(芸名:佐藤文岳岳)。長眼を今藤尚之師に学ぶ。西洋音楽と近世邦楽を横断する作曲・演奏活動を行う。石牟礼文学の作曲に、浄瑠璃(不知火)われ、若き苦海の底より咲き出で、筆曲(三日月まんじやうけ)、歌曲(アミの鳥)ほか、劇音楽では「緑並記の蝶」「言魂」など。

衣装 細田ひな子 / 舞台監督 島本和人 / 主催 アトリエ花習

2024年8月15日(木)

精霊萬燈祭に引き続き 17時開演(30分前開場)

会場 熊野本宮大社 御神門内、御垣の前 特設舞台

〒647-1731 和歌山県田辺市本宮町本宮1110

雨天時会場：世界遺産熊野本宮館多目的ホール(熊野本宮より徒歩6分)

● 記念事業 運営協力費 4000円

● 申込 一般社団法人アトリエ花習

TEL 090-19676-13798

● 後援 熊野本宮観光協会